

【南丹市】

校務DX計画

1. 趣旨

南丹市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきたが、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本市町村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 南丹市における課題等について

文部科学省が示した「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言」に基づき、次世代に向けた校務のデジタル化を加速させるため、文部科学省は「GIGAスクール構想に基づく校務DX化チェックリスト」を公表した。このリストには、教育委員会や学校がデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する上で、取り組むべき重要な項目が明示され、本市では、これらの項目を確実に実現し、校務のデジタル化を一層推進するために、以下の事項を特に重点的に取り組む。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進めます。

（1） 校務系・学習系ネットワークの統合

データの一元管理による迅速な情報共有や、ICTを活用した柔軟な教育環境の構築を可能とするため、学校・市情報担当課・関係業者等と連携を図りながら、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、校務系・学習系ネットワークの統合による環境の整備（教職員用端末の一台化を含む）に向けた調査研究を着実に進める。

（2） 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、クラウド型で運用し、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しており、引続き活用を進める。

(3) 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

上記2と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成AIの活用に向けた検討を行う。

(4) FAX・押印の原則廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

(5) ペーパーレスの推進

現在、校内の職員会議等において、校務サーバ等に保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムのグループウェア機能でマニュアル等を学校間で共有を行っている。また、保護者連絡アプリによる教員と保護者間の連絡のデジタル化、職員間の情報共有のデジタル化や研修資料のアーカイブ化により、ペーパーレス化を推進している。そのため、引き続き、授業用端末及びクラウドサービスを活用していくとともに、会議資料のペーパーレス化を一層推進していく。